



幽霊がつなぐギリシャと日本 ー ルキアノス・能楽・小泉八雲 ー



テクノロジーの進展でA I（人工知能）が日常生活に入り込んでいる科学技術全盛の現代でも、超能力や幽霊などの超常現象は人々の心を捉えてやむことはありません。古代ギリシャ・ローマ時代も、科学・技術の進展の一方で迷信が流布した時代でもありました。ローマ帝政期にアテネで活躍したルキアノスの著作から、当時の知識人の間で「幽霊」などの超常現象が信じられていたことが窺われます。一方、日本の伝統芸能の「能楽」においては、現実と心霊世界の境界を描く芸術として人々の間に浸透してまいりました。また、近代には、ギリシャで誕生し日本に移住した小泉八雲氏（ラファディオ・ハーン氏）が、日本の幽霊伝説をヒントに様々な作品を発表しています。いわば、「幽霊」や超常現象でギリシャと日本とが結びついているとも言えます。

今回は、シテ方金春流能楽師で重要無形文化財総合指定保持者の櫻間右陣氏による能楽の披露に続き、第一部でプリンストン高等研究所のアンゲロス・ハニオティス教授から、「理性の時代の迷信とは：ルキアノス『嘘好き』の現代性」についてご講演頂きます。第二部では、ハニオティス教授、櫻間右陣氏および小泉八雲曾孫で小泉八雲記念館館長の小泉凡氏による鼎談を行い、ルキアノス、能楽、そして小泉八雲の世界観の関係性について掘り下げてまいります。モデレーターは京都大学の藤井崇准教授をお願い致しました。秋の宵に、ギリシャ文学と幽玄の世界をお楽しみください。

日時 2025年9月19日（金）18：15～20：30（開場18：00）

場所 大妻女子大学千代田キャンパス（千代田区三番町12番地）
E棟地下1階 E055講義室

参加費 無料

参加方法 日本ギリシャ協会ホームページより事前申込

<https://www.japan-greece-society.jp>

（セキュリティの観点から事前登録のない方は入場できません。）

言語 日英同時通訳あり



©一般社団法人櫻間會



ルキアノス胸像



©小泉八雲記念館



◇主催：日本ギリシャ協会

◇後援：駐日ギリシャ大使館 小泉八雲記念館 一般社団法人櫻間會

◇協力：京都大学 大妻女子大学

日本ギリシャ協会事務局（三井住友海上） 担当（小池・山本）

Tel: 03-3259-1304 Fax: 03-3259-9317 e-mail: info@japan-greece-society.jp

講師・パネリスト・モデレーター略歴

アンゲロス・ハニオティス



プリンストン高等研究所教授。1959年、アテネ生まれ。アテネ大学（1978-82）とハイデルベルク大学（1982-84）で古代史と考古学を学び、博士号（1984）と教授資格（1992）をハイデルベルク大学にて取得した。ニューヨーク大学の古代史教授（1994-98）、ハイデルベルク大学の古代史教授（1998-2006）、ハイデルベルク大学副学長（2001-06）、オクスフォード大学オール・ソウルズ学寮の上級研究員（2006-10）を歴任。2010年より、プリンストン高等研究所の古代史・古典学教授。6冊の単著、30冊以上の編著、250編以上の論文を著している。主な研究テーマは、ヘレニズム世界ならびにローマ帝国東方属州の社会と文化で、特に、公的生活の劇場性、歴史的記憶、アイデンティティ、宗教の社会的側面、感情、戦争、現代世界における古典学の意味に関心を持っている。英語、ドイツ語、ギリシャ語で出版された書物のうち、もっとも重要なものは以下の通り。

『ギリシャ語刻文における歴史叙述と歴史家』（1988）、『ヘレニズム期のクレタ島における都市間条約』（1996）、『ヘレニズム世界の戦争：社会と文化』（2005）、『ヘレニズム世界における劇場性と公的生活』（2009）、『アレクサンドロス以後：長いヘレニズムとギリシア世界』（2018）。感情、説得技法、宗教、儀礼、刻文学に関する研究にたいし、ドイツ研究振興協会、欧州研究会議、バーデン＝ヴュルテンベルク州研究省、パッカード人文学インスティテュートの各機関より、計300万ユーロ以上の研究資金を授与されている。これまでに、ニコス・スヴォロノス賞（1991）、ニューヨーク大学教育金賞（1997）、バーデン＝ヴュルテンベルク州研究賞（2001）、ギリシャ文学賞（エッセイ部門、2010）、そしてアレクサンダー・フォン・フンボルト財団のアンネリーゼ・マイヤー賞（2015）を受賞している。各国アカデミーの客員会員を務める一方、ヘレニック国際大学（2012）、リエージュ大学（2016）、テッサロニキ大学（2018）などから名誉博士号を授与され、2013年には、ギリシャ共和国大統領より、フェニックス章（コマンダー）を与えられた。

小泉凡(こいずみ・ぼん)

小泉八雲記念館館長。焼津小泉八雲記念館名誉館長。

島根県立大学短期大学部名誉教授。

1961年東京生まれ。成城大学・同大学院で民俗学を専攻後、1987年に松江へ赴任。妖怪、怪談を切り口に、文化資源を発掘し観光・文化創造に生かす実践活動や、小泉八雲の「オープン・マインド」を社会に活かすプロジェクトを世界のゆかりの地で展開する。2022年度全国日本学士会アカデミア賞を受賞。

主著に『民俗学者・小泉八雲』（恒文社）、『怪談四代記―八雲のいたずら』（講談社）、『小泉八雲と妖怪』（玉川大学出版）ほか。

小泉八雲（ラフカディオ・ハーン）曾孫、日本ペンクラブ会員。



藤井 崇 (ふじい・たかし)

京都大学大学院文学研究科准教授。1978年、山口県生まれ。京都大学文学部（2001）、京都大学大学院文学研究科修士課程（2003）、ハイデルベルク大学哲学部古代史・刻文学ゼミナール博士課程（2010、Dr. phil.）で西洋古代史を学ぶ。チューリッヒ大学歴史学部研究員（2009-10）、オクスフォード大学ウルフソン学寮研究員（2010-13）、京都大学白眉センター特定助教（2013-15）、関西学院大学文学部准教授（2015-21）を経て、2021年より現職。専攻はヘレニズム史、ローマ史、ギリシャ語刻文学。単著（英文）に『ローマ帝政期キプロスにおける皇帝崇拝と皇帝の表象』（2013）、翻訳書にアンゲロス・ハニオティス『アレクサンドロス以後：長いヘレニズムとギリシア世界』がある。

櫻間 右陣（さくらま・うじん）

シテ方金春流能楽師。一般社団法人櫻間會代表理事。重要無形文化財総合指定保持者。昭和36年、東京生まれ。人間国宝・櫻間道雄（みちお）の初男子孫、後を継ぐものとして師事し、道雄急逝後は、伯父・櫻間金太郎（きんたろう）に師事。後に金太郎・道雄の嗣子となり、第21代櫻間家当主。4歳より稽古をはじめ、初舞台。櫻間左陣（さじん）弓川（きゅうせん）と能楽界に名を残す櫻間家にて、その伝統を継承するものとして演能活動が続けている。平成16年1月1日、櫻間家代々の当主名「右陣」を襲名。櫻間會・五耀會・九州櫻間會を主幹稽古活動や講演活動などを通じて能の普及に努めている。



公社）能楽協会会員 （社）日本能楽会会員
（能楽協会理事、東京支部常議員などを歴任）

－国内での主な公演－

- ◎「櫻間右陣之會」「櫻間會例会」を主催
- ◎能・狂言・平曲による「平家物語の世界」【国立能楽堂】を毎年開催
- ◎称名寺薪能【横浜市金沢区】・鳩森薪能【渋谷区千駄ヶ谷】でシテを勤める
- ◎大神神社後宴能（毎年4月10日）演者
- ◎春日部薪能【春日部市】（隔年）でシテを勤める
- ◎国立能楽堂 定例公演など
- ◎鳩森八幡神社秋季例大祭奉納 神賑能 および 新春奉納式

－海外公演－

アメリカ・スイス・フランス・オーストラリア・カナダ・オランダ・中国・ドイツ・ポルトガル・モンゴル・台湾・エジプト・イタリア・ロシア・ハンガリー・オーストリア・モナコ・デンマーク・イスラエル・韓国・アイスランド・スウェーデン・フィンランド

－テレビドラマの演能場面への協力－

- ◎NHK大河ドラマ『利家とまつ』では「高砂」
- ◎『信長 ～キング・オブ・ジャパ～』では「八島」など数場面
- ◎『武田信玄』では「二人静」など2回
- ◎『荒木又衛門』

－テレビ・ラジオ番組への出演－

- ◎平成16年1月3日 NHK「新春能狂言」 能『田村 白式』
- ◎平成25年11月24日 NHK「古典芸能への招待」 能『富士山』（富士山の世界文化遺産登録を記念した番組）
- ◎NHK－FMラジオ放送への出演（最新の出演は令和6年10月17日）

－稽古・普及活動－

- ◎東京・神奈川・埼玉・静岡・新潟・大阪・九州各地で稽古活動
- ◎横浜市金沢区主催『出張能講座』講師
- ◎文学座附属演劇研究所 座外講師
- ◎獨協大学能楽会 講師

プログラム

オープニング	
18：15～18：40	能楽「経政」 櫻間右陣 シテ方金春流能楽師 一般社団法人櫻間會代表理事 開会挨拶 柄澤康喜 日本ギリシャ協会会長 ご挨拶 ニコラオス・アルギロス閣下 駐日ギリシャ特命全権大使 市川博 大妻女子大学学長
第1部	
18：40～19：30	基調講演 アンゲロス・ハニオティス プリンストン高等研究所教授 理性の時代の迷信とは：ルキアノス『嘘好き』の現代性 Superstition in a Time of Reason. The Modernity of Lucian's "Lover of Lies"
19：30～19：40	休憩
第2部	
19：40～20：30	パネルディスカッション ー幽霊がつなぐギリシャと日本ー ルキアノス・能楽・小泉八雲ー
	パネリスト アンゲロス・ハニオティス プリンストン高等研究所教授 櫻間右陣 シテ方金春流能楽師 一般社団法人櫻間會代表理事 小泉凡 小泉八雲記念館館長 モデレーター 藤井崇 京都大学准教授
20：30	閉会

小泉八雲（ラフカディオ・ハーン）について

パトリック・ラフカディオ・ハーン（小泉八雲）は、1850年6月27日にギリシャ西部のレフカダ島で生まれました。父チャールズはアイルランド出身の軍医、母ローザはギリシャ・キシラ島の出身です。アイルランドは当時まだ独立国ではなかったので、ハーンはイギリス国籍を保有していました。2歳の時にアイルランドに移り、その後イギリスとフランスでカトリックの教育を受け、それに疑念を抱きます。16歳の時、遊戯中に左目を失明。19歳の時、父母に代わって八雲を養育した大叔母が破産したことから、単身、アメリカに移住。赤貧の生活を体験した後、シンシナティでジャーナリストとして文筆が認められようになります。その後、ルイジアナ州ニューオーリンズ、さらにカリブ海のマルティニーク島へ移り住み、文化の多様性に魅了されつつ、旺盛な取材、執筆活動を続けます。

ニューオーリンズ時代に万博で出会った日本文化、ニューヨークで読んだ英訳『古事記』などの影響で来日を決意し、1890年4月に日本の土を踏みます。同年8月には松江にある島根県尋常中学校に赴任し英語教師に。さらに熊本第五高等学校、神戸クロニクル社の勤務を経て、1896年9月から帝国大学文科大学講師として英文学を講じます。1903年には帝大を解雇され、後任を夏目漱石に譲り、さらに早稲田大学で教鞭を執ります。

この間、1896年には松江の士族の娘、小泉セツと正式に結婚し、日本に帰化。三男一女に恵まれます。著作家としては、翻訳・紀行文・再話文学のジャンルを中心に生涯で約30の著作を残しました。1904年9月26日心臓発作で54歳の生涯を閉じます。



©小泉八雲記念館

能楽「経政」

今回ご覧頂きます能楽「経政」は仕舞形式（紋付袴姿で謡と舞により能の一部を簡素に表現する）で能「経政」の一部をご覧頂きます。
今回は特別に装束を着けた姿でご披露致します。

経政は人の名前で平経政（タイラノツネマサ）或いは但馬守経政（タジマノカミツネマサ）と云われ平安末期の源平の合戦に散った若い武将であり平家の公達です。
生前経政は仁和寺（にんなじ）御室の御所（天皇が出家し門跡を務めた事に由来）に仕え青山と云う名器の琵琶を賜る程の君の寵愛を受けていました。
戦で名器を損ねる事を惜しみ経政は御室に琵琶を返し戦いに赴きます。親友の大納言の僧都行慶は桂川まで経政を見送り武運を祈り別れを惜しみます。
しかし、経政の戦死の悲報が御室に届きます。
それを聞いた君はいたく悲しみ、経政の為に連日の糸竹の手向け（楽器の演奏を伴う弔い）を催します。そして経政の親友行慶が当番の夜に出来事は起こります。
ここ迄が前提になります。

能「経政」では僧都行慶が経政の受けた寵愛や糸竹の手向けが行われ今日は自分が当番に当たる事を説明し手向けを始めます。
今回は仕舞形式ですのでこの部分は省略されます。

ご覧頂きます部分は次の通りになります。

手向けの声を聞いた人影が「あら面白の琵琶の音」と謡いながら現れます。人影を怪しんだ行慶の問いに経政と名を明かします。
夜も更け、行慶がさらに手向けの琵琶を奏でると空は曇り雨の音が聞こえますが、経政は雲の端に見える月を教えこれは奏でられた琵琶の音色が心に映り見せた幻と教え、昔を懐かしみ自ら琵琶を奏でて舞い遊びます。
修羅道に堕ちた悲しみは自らの身を切り、苦しみに苛まれます。経政は浅ましい姿を見せるのは恥ずかしいと弔いの燈火を吹き消して暗闇に紛れて消え去ります。